

青ノ山の白い塔が 備讃瀬戸を守る

第六管区海上保安本部
備讃瀬戸海上交通センター



管制室の全景。山本さんが座っている右奥がエリア別担当、手前のデスクが総合的な判断をするチームリーダーの席



レーダー映像や無線を送受信する装置が集まる機械室

運用管制官の山本隆司さん(37)は小豆島出身。父親が航海士のため、幼い頃から「海保は海の安全を守るところ」と知っていた。高校卒業と同時に海上保安学校に入学、海上保安本部などを経て、昨年4月からセンター管制官に配属。



いつも見るあの建物が
持つ重要任務

青ノ山の中腹に見える白い塔。標高約158m、地上約39mのこの建物が、海上保安庁の「備讃瀬戸海上交通センター（以下センター）」という施設と知る人は少ないかもしれませんが。実は全国で7ヶ所しかない海上交通センターのひとつなのです。

1987（昭和62）年7月、瀬戸大橋開通の約9ヶ月前にセンターは運用開始しました。以前から海の交通の難所であった備讃海域。船の安全に必要な情報提供・航路管制などを行い、船の事故を防ぐために開設されました。

センターの役割は言わば「海上の交通整理」。今治造船で建造されるような全長400mの貨物船と小型の漁船が



マスコットの「うみまる」君



地域との連携を広げて職員のはげみにもなることを目指して広報活動を積極的に展開。今年初めて「うたつの町家とおひなさん」に出展し職員創作のオリジナル雛人形や宇多津の街並みなどを描いた鉛筆画などを展示。

守る【こと】、尊い人命を守る【こと】につながります。」
「衣類や雑貨、食料品や燃料などのほとんどは海外から船で運ばれてきます。これらの船の事故がないよう交通整理することは実は「みんなの生活を守る」ことに深くつながっています。」

船の往来の姿から世相を感じることもあるそうです。
「3・11の後は原油船が多く通るようになりましたし、最近貨物船が大型化してその影響が隻数が減りました。またブリッジに外国人乗組員が増えて通信を英語で行うケースも増えました。」

私たちの目の前の海は生活の大動脈で、いつも目にする白い建物とその安全を守り続けています。この現場を実際に職場体験できるワークシヨップや年に1回の一般公開も実施されています。興味がある方はぜひ詳細内容を確認してワークシヨップに参加してみてください。

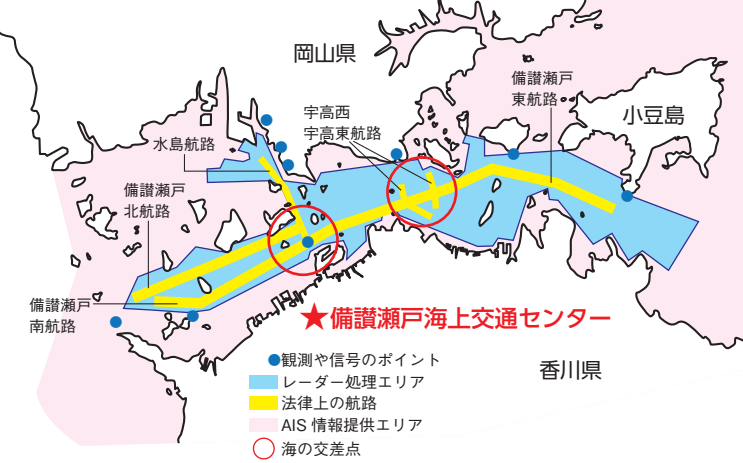
第六管区海上保安本部
備讃瀬戸海上交通センター
宇多津町青の山 3810-2
0877-49-3366
www6.kaiho.mlit.go.jp/bisan/



“平成最後”の「海の管制官」ワークショップ
（体験型学習）
～運用管制官の職場・業務を体験してみよう～

高校生、大学生、専門学校生、社会人等（高校卒業資格があり概ね23歳までの一般の方）で管制業務に興味を持っている方向けの体験型学習です。平成31年4月30日（火）までの土、日、祝日含む10:00～17:00の間で約2時間実施します。詳しくはwebにて「備讃 職場体験」で検索してください。

- 運用管制官が行っている業務の説明
- 実際に運用管制官が業務を行っている現場の見学
- シミュレーターを使用した「海の管制官」体験



あれば実際に航行している船と交信します。
こうして24時間365日、休みなく交通整理をしているのです。

上図のようにセンターの守備範囲は香川県、岡山県に挟まれた東西約80kmの範囲、対岸まで全部です。上の○部分に海の交差点があり、全体に

航路の幅が狭く、水深も浅く、濃霧も発生するという、まさに難所です。

岩橋哲也所長に伺いました。「当センターの任務はこの大変混み合う備讃瀬戸海域の【海の交通の安全を守る】ことです。そして事故を防ぐことは、タンカーからの重油流出などを防止し【海の自然を